

授業概要

分野	学科目	1年前期		90分講義 15回		
専門基礎分野	解剖生理学 I	30時間	1単位			
授業科目		講師名				
恒常性を保つためのはたらき		専任教員(実務経験者)				
科目目標	1. 生命維持に必要な内部環境の恒常性のしくみがわかる。 2. 生命維持に必要な循環のしくみがわかる。 3. 生命維持に必要な呼吸のしくみがわかる。					
	回数	科目	内容			
科目内容	1	内部環境の恒常性	1. 解剖生理学を学ぶ意義 1) 毎日繰り返される生活行動 2) 解剖学的用語 2. 始まりは一つの細胞 1) 細胞、組織、器官、器官系 2) 生命活動を支える化学反応 3. からだのほとんどは水？ 1) からだの水(体液)の正体 2) 細胞内液と細胞外液 4. 血液の正体 1) 血球の働き、血漿の働き 2) 血液凝固のしくみ 3) 血液の産生と破壊 4) 血液型 5. 体液の調整 1) 水分出納 2) アンダーシスとアルカローシス 3) 電解質の働き			
	2		循環	1. 休みなく働き続ける血流ポンプ 1) 4つの部屋と4つの弁 2) 体循環と肺循環 3) 心音と聴診部位 4) 心拍出量と血圧 5) 心臓の栄養血管 2. 心臓は自ら興奮する 1) 刺激伝導系 2) 心電図 3. 血管のしくみ 1) だんだんと細くなっていく動脈 2) コツコツと血液を集める静脈 3) 毛細血管 4. リンパ系		
	3			呼吸	1. 空気の通り道 1) 上気道・下気道 2) 肺 ・胸郭・胸膜・縦隔 ・肺胞 2. 息を吸う、息を吐く 1) 呼吸運動 ・呼吸筋 ・胸式呼吸・腹式呼吸 2) 呼吸音と聴診部位 3) 呼吸運動の調節 呼吸中枢・化学受容器 4) ガス交換 内呼吸・外呼吸(酸素分圧・二酸化炭素分圧) 酸素解離曲線 5) 肺気量 ・スパイログラム ・1回換気量と呼吸数 3. 呼吸に関連した働き 1) 発声・くしゃみ・咳・しゃっくり・いびき	
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
【授業形態】 講義、演習						
【評価方法】 筆記試験、出席状況						
【テキスト】 ナーシンググラフィカ解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版 病気がみえる ①循環器、②呼吸器 メディックメディア出版						